



大本山永平寺

立春

積もった雪が一層静寂を感じさせる深山幽谷の永平寺。吐く息は白く、その冷たさを観て萎縮するか否かは修行の志の高低に関わる所です。「高くとも射つべく、深くとも釣りぬべし」の気概が大切です。

今月は涅槃会が行われます。

私共の師匠のそのまた師匠と辿っていくと源はお釈迦さまになります。この動かし難い事実を誇りに思う時、ご遺徳に心から感謝するのみならず、精進にさ

らに一歩を進めることができるのです。

『ひとたびは涅槃の雲にいりぬとも 月はまどかに世を照らすなり世を照らすなり』という御詠歌があります。

お釈迦さまは月となって世を照らしておいでのになると詠まれたのですね。とても味わい深い文言です。

お釈迦さまはご入滅され、生身のお姿を拝することは叶いませんが、お経の中、み教えの中に今でも生きておいでになると思えてこそ仏弟子、仏教徒だと



思うのです。



大本山總持寺

二月三日、節分会追儺式が行われます。例年、百人を超える年男・年女が袴姿かまじになって、香積台の大黒尊天前から出発します。行列は手鑿しゅげいを持った大衆が引き、本山役寮、そして招待した人氣力士や有名俳優たちが続きます。回廊をねり歩きながら、二千人を超える参拝者の歓声の中、千疊敷の大祖堂に入堂します。

禪師さまが入堂なされると、節分会の御祈禱が行われ、参加した人々の無病息災、諸縁吉祥をお祈りします。内陣には、祈

禱札と豆の入った数多くの升が並べられ、早いリズムの祈禱太鼓に合わせて般若心経が読経される中、升が次々繰り出され、禪師さまや役寮、年男・年女、さらには有名人たちに手渡されます。そして、禪師さまの「ふくはーうち」というかけ声を合図に、一斉に豆がまかれます。千疊敷の大祖堂は、ふく豆を獲得しようとする人たちの、歓声で、たちまち熱気に包まれます。豆まきが終了した後の有名人たちによる福引き抽選会も節分会の楽しみをさらに盛り上げます。

二月十五日は、釈尊涅槃しやくそんねはん会が仏殿で行われ、厳かな雰囲気ふんぎに包まれます。



曹洞伴壇

選・村松五灰子

廢校の鉄棒借りる千大根

宮城県 木村とみ子

評 過疎化が進み子供たちもいなくなってしまう校庭の鉄棒。逆上がりや懸垂の賑やかな声が聞こえていたが今はもうそれも聞こえない。鉄棒も千大根で役に立っているのだが淋しかりう。大根を掛ける村人も淋しいのだ。余情深い。

貫乳の父のぐひ飲み年酒酌む

秋田県 小田寫恭葉

評 父の愛したぐい飲み。釉薬の微かな、ひび模様に長年使いた込んだ渋い味わいが滲む。今年もそのぐい飲みで年酒を頂く。父がしていたように。酒の味が深い。

百才の語り尽きせぬ日向ほこ

停め置きし車の霜や夜勤果つ

錠かけてよりの夜長と思ひけり

朝顔が実に観察の終わりけり

三尊に紅葉且つ散る苔の上

一人っ子の爺を侍らせ補虫綱

秋耕の土の塊手かたてで解す

日だまりを占め短日を長話

早寝して寝返りばかり長き夜よ

竹の春古銭見つけしかくれんぼ

三重県 山下 利夫

秋田県 松山 露州

東京都 長谷川 瞳

山口県 糸山 栄子

愛知県 松井 曉美

秋田県 鈴木えい子

愛知県 平松 京師

富山県 水野 昇平

東京都 斉藤ハルエ

秋田県 鈴木 ゆう

*選者吟

期待とは梅の蕾の様なもの

五灰子

*作句小見

寒いこの季節、身体や気持が固くては俳句が出来ません。軽いストレッチで肩を解したり深呼吸もよいでしょう。リラックステスした、しなやかな心から俳句は生まれます。

曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

一枚のねんねこに五人育てたる母の命日ふく
じゅそう咲く

秋田県 小田 寫恭葉

評 仮名表記の「ふくじゅそう」の視覚的な効果と語感が相俟って一首の世界をあたたく包んでいる。「ねんねこ」は、母の背と子の胸を密着させ、充ちたりた母子の間柄の象徴でもある。福寿草忌と呼ばせていただきたい。

母は父祖母は祖父との恋語る 姿変われど残
る歌舞伎座

東京都 木山 珠里

評 恋心というものは何時の世も普遍である。母と祖母を通
して、若い作者が受け止めている精神の健やかさを思う。伝
統と現代との調和を目指す歌舞伎座と対比させ興味深い。

八十二歳生きて在所の夢をみる背戸に柿の木桐の木四本

鳥取県 峰地 三義
希望とは地上の道のようなもの魯迅語りし日ははるかなり

東京都 鈴木 正作

紙漉きの舟に波打つ水の音重ねる和紙に雫連なる

新潟県 星野 三興

秋色の音もて晚鐘湖渡る 一人二人と釣人去れり

静岡県 飯田 裕子

歎持てば寒くはないと言う媪玉ネギ五〇〇ひとりで植えたり

宮城県 畠山 恵

けいとうの赤き鶏冠に雨蛙喉ふるわせてうごくともなし

山形県 多田 さよ

綿菓子子のやうに軽くて甘き嘘分つてゐても耳は聴きたい

東京都 長谷川 瞳

葦叢は風にそよぎて私語しをり囁くやうに眩くやうに

愛知県 前田 操

故郷の納屋に残れる蕎麦母の打ちたる如く握りぬ

福岡県 小林 栄行

見えますか今夜の月はきれいだね恋人のごと孫よりメール

東京都 津久井すみ子

秋の陽にサッカーをする少年の髪に黄金のリングあらはる

福岡県 三吉 誠

* 選者詠

暁暗のしじまに 一声あげるとき鴉はうすき悲哀
まといぬ ちづ

* 作歌小見

今月は殊に秀歌が多くて選歌に迷いました。晩秋は歌心を誘うのかも知れませんが、白寿の前田操さんが「囁くやうに眩くやうに」とお聞きになった風の言葉はどのようなものだったかと心惹かれてなりません。